

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 25 日

所属	基盤教育機構	職名	専任講師	氏 名	鷲谷 浩輔
研究課題	ラグビーのスクラム基本動作の言語化				
研究キーワード	ラグビー スクラム コー チング 質的研究	当年度計画に対す る達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの 成果が達成できた		
関連する SDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

【研究成果の概要】

一昨年より、U20 日本代表チームのコーチとして国内合宿から海外遠征まで帯同し、今まで得た知見を元に現場のコーチングに生かしている。その際にトップレベルの選手や他のコーチから様々なフィードバックをもらい、監督のロブペニー氏や他国の代表監督らとディスカッションしながら、自身の立てた仮説に対する検証を行ってきた。そこで得た知見と情報をベースに、著書の執筆に取り組んだ。また、例年に引き続き、本学グラウンドにて、本学ラグビー部員を被験者とし、スクラム動作の撮影及び分析を行っている。また、プロラグビーチームのグリーンロケッツ東葛、浦安 D ロックス、日野自動車レッドドルフィンズの協力もあり、プロラグビー選手やプロコーチからの助言も多く頂くことができた。分析の際、研究協力者である NEC の森田氏や名古屋学院大学の河合氏らと連携しながら、多角的な視点で分析を行うことができています。また、昨年度から新たにプロスクラムコーチである檜山氏を招き入れた。昨年に引き続き、NTT が開発した測定機器を用いながら、全国各地の高校・大学にてデータを収集している。スクラムの言語化を研究として取り組んでいるのが日本で唯一我々だけという特異性もあり、例年に引き続き、高校・大学・社会人ラグビーチームからの講演等の依頼も多く、講演や zoom セッションにて多くのチームとビジョンを共有できている。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

特になし

【著書】

「ラグビーのコーチング学」ラグビー研究協議会編（大修館書店）
第三章ラグビーの技術・戦術トレーニングにおけるコーチング活動

4. スクラムにおけるボール獲得 pp.63-65 を担当

【学会発表等】

特になし

3. 主な経費

ユース（高校生）世代の調査により、全国トップレベルの高校へ出向いた際に旅費交通費がかかっている。その他、書籍や PC 関連の消耗品費等に充てている。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【その他の活動】

- ・ U20 日本代表 FW コーチ
- ・ 関東大学ラグビーフットボール連盟 理事
- ・ 千葉県ラグビーフットボール協会 大学部門 副委員長

(本文は 2 ページ以内にまとめること)